

## 追加関連論文

(水酸化マグネシウム)

## 1 日本人の食事摂取基準. 厚生労働省策定 [2005 年版] 第一出版. 131-134

. . . P 1

健康な個人または集団を対象として、エネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示したもの。マグネシウム摂取の上限量については、通常の食品から摂取する場合、マグネシウムの過剰摂取によって好ましくない健康影響が発生したとする報告は見当たらないため許容上限摂取量 (UL) は設定せず、通常の食品以外から摂取する場合には、下痢の発症を指標として、UL を成人に対し 350 mg/日、小児 (8 歳以上) に対し 5 mg/kg 体重/日と設定している。

## 2 Council for Responsible Nutrition(CRN). Vitamin and Mineral Safety, 2nd Edition, (2004).

. . . P 7

米国の CRN によって行われた 28 種のビタミン及びミネラル類の安全レベルに関する評価。マグネシウムについて食品以外から摂取する量が 400 mg/日を超えると軽度から中等度の可逆的な下痢が生じることから、健康な成人に対し Upper Level for Supplements (ULS) を 400 mg/日としている。

## 3 Expert Group on Vitamins and Minerals(EVM), UK. Safe Upper Levels for Vitamins and Minerals. (2003): 287-292.

. . . P 33

英国の EVM によって行われたビタミン及びミネラル類の安全上限レベルに関する評価。マグネシウムについて、サプリメントからの摂取量について Guidance Level (GL) を 400 mg/日 (成人 60 kg 体重で 6.7 mg/kg 体重/日に相当) としている。

4 Bashir Y, Sneddon JF, Staunton HA, Haywood GA, Simpson IA, McKenna WJ, Camm AJ. Effects of long-term oral magnesium chloride replacement in congestive heart failure secondary to coronary artery disease. *Am. J. Cardiol.* (2003) 72: 1156-1162.

. . . P 47

マグネシウムの経口摂取による効果を調査するため、うっ血性心不全、2 次的な冠動脈血病を有する患者を含めた 21 名に、二重盲検・プラセボ投与方法を用いて塩化マグネシウム (15.8 mmol/日; マグネシウム換算) を 6 週間投与した。その結果、無症候性の心室性不整脈の頻度が減少、副作用については約 3 分の 1 の患者で胃腸症状がみられたが、重大な副作用はみられなかった。

5 ステアリン酸マグネシウムのマウスを用いる小核試験試験番号 (SBL71-05)  
(株)新日本科学安全性研究所 (最終報告書 2001.5.15)

・・・ P 55

Crj:CD-1(ICR)マウス (各群雄 6 匹) にステアリン酸マグネシウム (500、1,000、2,000 mg/kg 体重) を単回経口投与後 24 時間を実施した骨髄小核試験では、赤芽球に対する小核の誘発は認められなかった。